

令和5年度 日南市立細田小学校 自己評価書 および 学校運営協議会評価書

学校経営ビジョン

学校の教育目標である「自ら学び、進んで実践する児童の育成」を実現するために、「導き、見守り、見届ける教育」を推進し、「学校は楽しいところ 子どもが行きたくなる 笑顔で過ごせる学校」を学校経営ビジョンの指針に掲げ、子どもが「授業がわかる。出来るようになる。認められる。」この実現に取り組む。

評価項目	主な達成手段	判断基準	対象	評価値 (満点4)	学校の考察	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の向上	◎1 学力向上を目指した授業改善	単元テストの正答率	学校	3.00	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト正答率が88%を超えるという目標は、残念ながら全ての学年で達成とはいかなかったが、昨年度の目標である85点以上を基準とする多くの学年で達成できている。達成できていない児童の課題の一つは漢字の定着があると考えられる。 一昨年度、児童全員にタブレット端末が行き渡り、昨年度取り組んだ「ICT機器を活用した指導法の研究」を本年度も生かして、ICT機器を活用しながら個別最適な学びや協働的な学びの在り方を探る研究授業を各自が行った。また、複式学習の研究授業を公開したり、積極的に他の学校の研究公開に参加したりすることで指導法改善に努めた。 読書量は11月末現在で全校合計約2800冊と、目標である年間3000冊を大きく超える状況である。学期に1回の読書まつりや家読(うちどく)の日の取組に加え、週1回来校の図書書との連携や、市図書館の巡回図書室(たいよう号)、GAYAの読み聞かせなどが功を奏している。また昨年度の反省から読書したことをアウトプットする取組として読書感想文・画に取り組んだ。今後は、保護者の家庭での読書習慣に対する認識を高める必要があるが、学校においては保護者が感じている以上に読書を好んでおり、家庭での活字に親しむ習慣が今後の課題である。 キャリア教育に関しては、昨年度に引き続き全体的に若干低い数値にとどまっている。キャリアパスポートを活用したり、行事の前にはめあてを持たせたりと、目標を立てて取り組ませようとしているが、なかなか成果として出てきていない。次年度は、これまでの取組を継続しながら、さらに児童が将来に向けて夢や希望を持てるような工夫をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の分りやすい楽しい授業の評価に比べ、保護者の学習を理解しているかという評価が低い。保護者にとっては、テストの結果が判断材料になっていると思うが、答えが合っているかどうかだけではなく、答えを導き出す家庭も大切である。 漢字の宿題を見ていると、もらった答えで自己採点をしているが、分からない漢字はすぐに答えを見て書き写している。保護者のチェック機能を高めることも大切である。 昔はテレビなどを一家団楽で観ている時にいろいろな情報入ってきて一般常識を身につけることができた。今は見たい番組や得たい情報だけをチェックできるため、ニュースなどを見る機会も少なく、雑学が得られない。 キャリア教育で、子どもたちに目標をもたせるには、その子の夢に合わせた目的意識をもたせることも大切である。それが学習の興味にもつながる。
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.59		
		学力が身に付いているという保護者の認識	保護者	2.91		
	◎2 読書活動の充実	主題研究の取組状況	学校	4.00		
		タブレットの操作に慣れているという児童の認識	児童	3.41		
		情報端末機器の扱いに慣れているという保護者の認識	保護者	3.04		
	◎3 キャリア教育の推進	読書活動が定着しているという認識	学校	3.63		
		学校図書館の貸し出し冊数状況	児童	3.74		
		本や新聞などの活字を読む習慣ができてきているという認識	保護者	2.83		
豊かな心と社会性の育成	◎1 基本的な生活習慣の形成と規範意識の向上	キャリア教育の取組状況	学校	3.00	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣やあいさつについては、児童の振り返り職員や保護者の数値が若干低い結果になっている。昨年度課題であったSNSやスマートフォン、ゲーム機等による児童生徒への影響に対し、参観日を利用して講演会を聞き、児童と保護者に啓発を図ったことはよかった。あいさつについては、集会であいさつについての話をしたり、週1回「あいさつの日」を設定したりし、地域・家庭でも進んであいさつをするよう声かけをしている。 思いやりの心については、学校・児童・保護者ともに昨年度同様良い結果となった。小規模学校のよさを生かし、上級生が下級生に優しく接することで学校全体に優しい風土ができていく。今後これが継続できるようにしていきたい。いじめや不登校については、児童アンケートや教育相談を行いながら、早期発見や早期対応の取組を行っており、令和5年度に重大事態につながるようないじめは起きていない。不登校については、なかなか改善が見られない状況が続いているが、今後も外部機関と連携しながら対応していく必要がある。 家庭での環境美化の習慣についての数値が低くなっているが、学校では、少ない児童数ながら清掃活動に取り組みしており、朝のボランティアも多くの児童が積極的に取り組んでいる。机の中やロッカーの整理整頓と身の回りをきれいにしておく習慣を身につけさせることで、家庭でも整理整頓する姿が増えていくと考えられる。 児童の生活習慣については、定期的に行っているさわやかチェックの早寝と朝ご飯の項目で、2学期の○の数が1学期以上の児童が8割であり、全体的よくなっていると考えられる。しかし、児童の認識と保護者の評価に開きがあるため、今後も継続した指導が必要である。スマートフォンやゲームの使い方、お味噌づくりなど外部講師を招いて児童と保護者が同じ場で研修を行ったことは大変よかった。 春の体力テストの結果から目標を立て、自分の課題に向けての練習を行わせた。週に1回朝のラジオ体操を行ったり、体育の時間の最初には体力向上に向けた運動を行ったりするなど、体力向上に向けた取組を計画的に行なった。結果として握力は95%、立ち幅跳びは75%、50m走は40%の児童に記録の向上が見られた。 本年度も休み時間や清掃時間の抜き打ち避難訓練を実施するなど、より実践的な避難訓練を行った。安全な行動の仕方に関する児童のアンケートは最後の火災時の避難訓練後にとる予定であるが、児童の様子から危機意識をもって取り組む姿が多く見られている。また、保護者の認識も向上しており、日常での安全行動が身に付きつつある結果であると思える。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや整理整頓とは、なぜそれが必要なかということもしっかり教える必要がある。 いじめは隠れて行われることがある。けんかや言い合いなどを見えるところで行う内はまだ健全である。 子どもたちのトラブルは成長過程として「あたり前」というような思いをもってとらえ、子どもたちの成長に向けて指導してほしい。 トラブルなどを保護者に伝えても受け入れてもらえないなど、細田の人は温かい。 不登校の児童が心配である。登校に向けて何かできることがあればよい。
		基本的な生活習慣等が定着しているという認識	学校	3.25		
		進んであいさつをしている児童の認識	児童	3.50		
	学校のきまりを守っているという児童の認識	児童	3.45			
	基本的な生活習慣が定着しているという保護者の認識	保護者	3.00			
	◎2 思いやりの心の醸成	思いやりの心を醸成する活動に努めたかという認識	学校	3.50		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識	児童	4.00		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識	保護者	3.35		
	◎3 環境美化意識の向上	清掃時間の児童の取組状況	学校	3.29		
清掃時間の児童の認識		児童	3.41			
環境美化の習慣が身に付いているという保護者の認識		保護者	2.65			
体力向上と健康安全意識の育成	◎1 健康や食に関する意識の向上	健康・食育指導の実施状況	学校	3.50	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活習慣については、定期的に行っているさわやかチェックの早寝と朝ご飯の項目で、2学期の○の数が1学期以上の児童が8割であり、全体的よくなっていると考えられる。しかし、児童の認識と保護者の評価に開きがあるため、今後も継続した指導が必要である。スマートフォンやゲームの使い方、お味噌づくりなど外部講師を招いて児童と保護者が同じ場で研修を行ったことは大変よかった。 春の体力テストの結果から目標を立て、自分の課題に向けての練習を行わせた。週に1回朝のラジオ体操を行ったり、体育の時間の最初には体力向上に向けた運動を行ったりするなど、体力向上に向けた取組を計画的に行なった。結果として握力は95%、立ち幅跳びは75%、50m走は40%の児童に記録の向上が見られた。 本年度も休み時間や清掃時間の抜き打ち避難訓練を実施するなど、より実践的な避難訓練を行った。安全な行動の仕方に関する児童のアンケートは最後の火災時の避難訓練後にとる予定であるが、児童の様子から危機意識をもって取り組む姿が多く見られている。また、保護者の認識も向上しており、日常での安全行動が身に付きつつある結果であると思える。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ご飯は一日の基本になる。朝ご飯を食べていないと集中力もないので、みんなが食べてくるとよいことなるとよい。 細田中学校は今年から地域を巻き込んだ運動会を行っている。児童数が減少していく中で、将来的にどのような運動会の形にしていけるかを考えていく必要がある。どのような形にせよ、子どもたちの思い出に残る運動会を行ってほしい。
		生活習慣の改善	児童	3.20		
		早寝早起き朝ごはん等ができてきているという保護者の認識	保護者	2.83		
	◎2 体力向上プランの実践を通じた体力向上	体力向上プランが機能しているという認識	学校	3.38		
		体力の向上に努めているという児童の認識	児童	3.13		
		体力の向上の習慣ができてきているという保護者の認識	保護者	3.17		
	◎3 安全や防災に関する意識の向上	安全指導の取組状況	学校	3.86		
		安全な行動の仕方が身に付いているという児童の認識	児童	4.00		
		安全な行動の仕方が身に付いているという保護者の認識	保護者	2.96		
学校づくりに関した推進	◎1 家庭や地域との連携推進	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識	学校	3.43	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も地域ボランティア活動や、交流グラウンドゴルフ活動といった、地域との連携や地域人材を活用した学習を行えた。また、5・6年生のカツオ捌き体験や1・2年生のまち探検も大変有意義な活動であった。地域の行事参加については、家庭の事情もあり、なかなか難しいが、学校に来た情報は積極的に児童に伝えていく。 学校通信や学級通信、学校ホームページを通じて、必要な情報の発信は行えた。また、必要に応じて、電子メールを活用した情報の提供を行った。携帯でアンケートに答える機能は大変便利であるため、今後も活用していきたい。また、授業参観および学級懇談の出席率は目標の80%を達成(89%)し良好であった。12月は1校時の参加者が少なかった。 児童の実態や社会のニーズに合わせてながら、年度途中でも教育課程の修正を行っている。また、本年度も学校運営協議会に全職員が参加し、委員の皆様の声をダイレクトに教 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントは、コロナから縮小している。今年はいずれあい祭りもあったが、大人の地区行事に対する熱量も下がっているのではなか。
		地域の行事に参加できているという児童の認識	児童	3.18		
		地域の行事に参加できているという保護者の認識	保護者	2.78		
	◎2 家庭や地域との情報共有の推進	学級通信やHPを通じて情報発信に努めているという認識	学校	3.71		
		参観日や懇談の保護者の出席状況	保護者	4.00		
		◎3 教育課程の充実と改善	教育課程の改善に日々努めているという教師の認識	学校		
家庭や地域の声を生かした教育課程が作成されている関係者の認識	その他		3.38			

次年度の方針

- 【学びに向かう力の育成】「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって、子どもたちの学びに向かう力を育むと共に、誰一人取り残さず、大切に育てていく学びの方向性(「ひなたの学び」)を究める。
- 【豊かな心と社会性の育成】豊かな人間性や社会性を育むために、自分も他者もかけがえのない存在であるという人権感覚を身につけさせると共に、社会的自立に向けた規律ある態度の形成のために、地域や家庭と協働し連携を図る。
- 【体力向上と健康安全意識の育成】心身共によりよく生きる能力を身に付け実践させるために、日常の保健指導や体育指導に加え、地域や保護者と連携した指導を積極的に進める。
- 【地域とともにある学校づくりの推進】学校での学びがより豊かに広がりをもつものとなるように、学校と地域がパートナーとして連携・協働しながら教育活動を展開する。